

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 29
2022.4.20

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740 (32) 4156

http://takashima-tojukai.com/

「藤樹先生が 結んでくださったご縁」

高島藤樹会理事 木村 健治

藤樹先生の
思想について
は、浅学菲才
で学習のため、
私が高島
藤樹会へ入会

させて頂くこととなったご縁について記させて頂く。

「致知」という雑誌はご存じの方も多いと思うが、私は二〇一七年九月に京都で開催された同誌の「愛読者の集い」へ参加した。その懇親会・会場にて、来賓として紹介された中江彰氏を知り、同郷ということで挨拶したところ、高島から参加されている他の方々を紹介くださった。

この出会いから、「西びわこ藤樹木鶏クラブ」(高島の愛読者会)の例会へ参加させていただくこととなり、高島藤樹会の前会長・川越清司氏との嬉しいご縁ができた。そして、さらにここから「本会」ならびに「掃除に学ぶ会」、「実践人の家」等への入会へと導かれた。

また、二〇一九年に東京で開催された「致知」愛読者の集いには、鎌

倉円覚寺の横田南嶺老師や大峰山千日回峰行で有名な塩沼亮潤・大阿闍梨にお会いしたいという一心で参加。「近江の国は中江藤樹先生・生誕の里である高島市から参りました」と自己紹介のフレーズを駆使した。全国の方は、この藤樹先生の里という言葉に、興味や親近感を覚えてくださると思う。

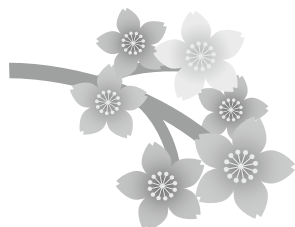
北海道旅行の折には、札幌・時計台のガイドの方に、「内村鑑三先生が『代表的日本人』で海外に紹介された中江藤樹先生の里から参りました」と話しかけると、彼は「滋賀の湖西地方へは何度か行きました。とても良いところですよ」と、たちまち旧知の間柄のような気分になった。これも藤樹先生が結んでくださったご縁である。

四十三年間金融機関に勤務し、組織が求める諸計画目標の達成のために精励勤務してきたが、還暦を迎えた年に、新しいことにチャレンジするきっかけとなったらとの想いもあり、愛読者の集いに参加したこと。この一歩を踏み出す勇氣を持てたことが、人生の大きな転機になったと実感している。

高島藤樹会での学びからは、医師を目指す大野了佐への藤樹先生の献身的な指導(医学を学ぶための教科

書を彼一人のために作成された)を思う時、身近な一人の人間のためにここまで精魂を尽くせるのかと自問自答した。このことが職場で身近にいる若手の営業マン達をいかにして励まそうかという動機となり、ラインでの「一日一言グループ」結成へとつながった。ご縁ある人達へ日々励ましの言葉を発信している。

また、藤樹先生の里であるにもかかわらず安曇川駅前が雑草で見苦しい時期があったことから、令和元年一〇月に「高島市を美しくする会」を結成。主に高島市内の駅前清掃を実施している。日々の生活で曇りがちな良知を、この清掃活動によって磨き明るくすることができ。掃除の効用であり、「知行合一」の実践でもあります。先日はある会員から、「早く掃除がしたくてうずうずしています」とのうれしい便りがあった。最後に、現会長の田中清行先生の「藤樹人間学塾」では、令和四年二月から「鑑草」の学習が始まった。三月は、「嫁と姑」という永遠の難題について、多くの学びがあった。ぜひ皆さまもご参加ください。



藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

十二月、第二百二十回人間学塾を開きました。参加者は初めての女性二人を含んで十一人でした。

今回で『中庸解』は最終です。皆で輪読し、大意を話しました。

「教養人は徳性を尊ぶゆえに上の地位にいても偉そうにせず、下の地位になっても無駄な反抗はせず、道理の通る時世であれば互いに志を立てて徳のある行動をし、道理が通らない時世であれば自分の身を修めて時節の到来するのを待つ。詩にも言われている。良知の本体の明が宇宙とつながっているその身体を守る」と。

この節は人道を説いているので、聖人の具体例として『代表的日本人』の話をしました。

参加者からは「改めて生きていることに感謝しながら一日を大切に生

きたいと思った」、「自分を内観でき気付きを得ることができた。日々の生活に活かして豊かに生きたい」等の意見、感想をいただきました。

令和四年一月、第二百二十一回人間学塾を開きました。今回の参加者は十一人でした。

今回は、『代表的日本人』のうち中江藤樹の章を皆で輪読しました。そして大意を話しました。

参加者から「この本の最後の記述『崇高な目的を持って生きていれば、目立たない人生であっても影響を与えられることを、私たち誰もが藤樹から学べるのではないだろうか』に共感した」、等の意見、感想をいただきました。

二月、第二百二十二回人間学塾を開きました。大雪で七人の参加でした。今回から藤樹の最晩年の著作『鑑草』です。これは、先生が女性の生き方について中国の故事を参考に書かれたもので、儒学、陽明学と共に仏教思想も入っている興味深いものです。原文と現代語訳を読みま

した。今回は序文です。大意は以下のとおりです。

「世の中のいろいろな幸福を比べてみて、三段階に分けると

すれば、最上は健康と心の安寧そして子孫の繁栄、二番目は長生きすること、最後が出世して裕福になることです。

これらの幸福の種は明德仏性（全ての人に生まれつき備わっている良心）です。明德仏性を明らかにして、どんなことにも執着せず、怒らず、頑固にならず、不機嫌になることがないようにしましょう。親への孝行に真心を尽くし、夫には素直に従い、子供を正しく育て、夫の親族にはそれぞれ親切に接して、使用人には思いやりを持ち、身分の低い人に慈悲を持って恵み与えることが明德仏性の修行になるのです。

この修行に真心あれば、人は必ずそれぞれが生まれ持っている幸運を得ることは間違いありません。……」

その後、藤樹を目標に生きた清水安三さんの話をしました。

参加者から「物事が上手いかわないときは過去に原因があったのだと思うと受け入れ易い」、「『鑑草』の時代と現代の時代背景の差はあるがその精神は現代にも十分価値があるものだと思う」等の意見、感想をいただきました。

三月、第二百二十三回人間学塾を開きました。参加者は十人でした。

今回は『鑑草』第一巻「孝行と不孝の報い」の序と第一話「姑の死を望んだ不孝な嫁」です。皆で輪読しました。

大意は「人間は生まれつき明德仏性を持っているので、本来は嫁と姑も仲良くするはずだ。しかし自他の区別をするようになると、関係が悪化する。だから嫁が常に明德を明らかにして孝行する真心があれば、姑も必ず心の曇りが晴れて本来の慈愛の心がわき起こり家庭融和、子孫繁栄するものである。これに関連する事例のお話」です。

江戸封建時代の男尊女卑、家中心の考え方と現代とは時代背景は大きく異なりますが、対人関係において、嫁と姑に限らず自己中心の考えでは上手く行かないことは共通しています。そこで参考資料を使って、「祈る」ことの効用が大きいこと、前向きに生きることが人生を豊かにすることなどの話をしました。

参加者から「人は知識教育については人類が今までに蓄積した知識を学ぶことができるが、人間学は蓄積ができないので、各人が一から学んでいく必要がある」、等の意見、感想をいただきました。

人間学に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

藤樹人間学塾 今後の予定

五月七日（土）、六月四日（土）、

七月二日（土）、八月六日（土）

■時間（原則） 十五時～十七時

■場所（原則） 安曇川公民館



ひじりの声 上田 藤市郎

戦争について考えざるをえない日々が続いている。悪い意味で進歩した兵器によって、人々が労力と節約の末に築き上げた希望の施設や家財が突如として破壊され、灰燼に帰す、残酷な光景が展開されている。戦争を惹き起こすのは富や権力をほしいままにしている者であり、戦争の災禍を直に被るのは、貧しく無名の普通の人々であり、この不幸な状況に対抗する力を持たない弱者である。子ども女性、病氣の人、老人が自分たちの住み家を後にして避難している。この没義道な現実に対して普通の人間は一体なにができるのであろうか。平和なときに私たちが口にする、良心、徳、善意、思いやりなどの言葉が、突如として暴風にあおられる枯れ葉のように見えてくる。非常時に対処する様々な考えがあつて当然で、各自の意見を尊重したいと思う。武器を備えて撃破するというのは、相互の殺し合いとなり、結局相手と同じ行動をすることになる。また非暴力を貫いて、どこまでも不戦を訴え続けるのは、自滅するか多大な犠牲を伴うだろう。力を持たない者は非暴力で抵抗する固い意思を持続するしかない。それも、同志の連帯を通じて意思を強化する方法で。枯れ葉がうず重なって山をなせば、大部分の葉っぱは、地上に留まるだろう。悲しいけれど、これが最善の策といえるかもしれない。

おしらせ

令和四年度定時総会の開催

コロナ感染防止対策を講じて、以下の通り定時総会を開催します。

総会後の心のセミナーと併せてご参加いただきますようお願いいたします。なお、都合により出席できない正会員様には、書面による表決権を行使いただく手配を講じます。

★日時 六月十一日（土）

十四時より

★場所 安曇川公民館

カルチャールーム

中江藤樹・心のセミナーの開催

コロナ禍のために延期してしました「中江藤樹・心のセミナー」を、別紙チラシのとおり開催いたします。入場者数の制限等、コロナ感染拡大防止策を講じて実施します。ご参加をお待ちしています。

★日時 六月十一日（土）

十六時～十七時三十分

（十五時三十分開場）

★場所 安曇川公民館

ふじのきホール

★演題 「今、藤樹先生の教えをどう活かすか」

★講師 東洋大学名誉教授

吉田 公平 先生

★参加費

無料

高島市内小学校三年生

「立志祭」に際しての作文

●「立志祭」について

「立志祭は明治四十一年頃から、青柳小学校を中心として実施されてきた歴史ある行事であり、藤樹先生の誕生日である三月七日に、子どもたちは九歳の頃の藤樹先生の思いを知り、今の自分を見つめ、自分の意志をもつための足がかりとしてきた。今もなお、藤樹先生の教えは、人を敬い思いやりの心を育む人間形成にとつて大切なものであり、その教えを学び、心を豊かにたくましく生きていこうとする高島の子どもの育成をねらいとして、高島市内の小学校において立志祭を実施する。」（高島市教育委員会学校教育課）

その具体的内容は学校によって異なりますが、講話「大学」唱和、「私の志」発表、藤樹紙芝居、藤樹カルタ大会等々です。また、旧町村内で合同開催される所もありましたが、コロナ禍になって各学校において開催されています。

そこで、高島藤樹会では六年前からその「立志祭」において、広報・啓発活動の一環として、「五事を正す」とキャラクター「よえもん君」を印刷したクリアファイルを市内三年生全員に贈呈してきました。立

志祭の当日に、該当地域の理事、もしくは校長先生から三年生にクリアファイルを渡していただきました。なお、当日「五事を正す」などについてのお話をする時間をいただけた会場もありました。お世話になりました各学校及び理事の皆様、ありがとうございました。

●「三年生の作文」の紹介

立志祭終了後、三小学校から作文をご提供いただきましたので、次を紹介させていただきます。

【安曇小学校】

「私の思い」

藤田 さな

▼立志祭に参加して▲

発表は、はずかしくてドキドキしましたが、ゆめを言うのがはづかしかったらなれないかもしれないと思います。がんばって言えたのがうれしいです。二十さい？に見てどうなるかが楽しみです（※）。立志祭をして、しょうらいのゆめにもう一度しっかり向き合って、しっかり考えて行動したいです。（※） 安曇川町内では三年生全員の「私の志」を藤樹書院に奉納し、その後、成人式の日に各人に返却してもらうことになっています。）

▼藤樹先生から学んだこと▲

島本 ゆな

これからもしっかりと人のことを考えて、たくさんの人を助けたいと思います。あと、人にやさしい言葉で言って、人によな思いをさせないようにしたいと思いました。

貌（ぼう）―顔のかたち、和やかな顔つきで人と接し、言（げん）―言葉つかい、視（し）―まなざし、聴（ちよう）―よく聞く、思（し）―思いやり、という五事を正すや、
 たくさんのかたを学びました。



「私の志」

神田 心和

わたしは、将来看護師さんになつて病人を助けて、笑顔いっぱいになつてほしいです。理由は、たくさん苦しい人、辛い人や笑顔がなくなつて悲しくなつたりする人がいるので、そんな人を早く助けてあげてスマイルになつてほしいと思つたからです。そのほかには、だれか知つている人が病氣になつたり、困つている人にどうしたら楽に生活できるか、何を食べたら健康になるか、どの薬を飲めばいいかとか、病氣になつてゐる時は何をすればいいかなど、役立つ事を言つてあげると、一人でもできるし、やる事ができて元氣になつてほしいから、将来看護師さんや、できればお医者さんになりたいです。

そのために藤樹先生の教えにもあるように五事を正すの貌なら人前で笑顔でいて人の心をみがくように心がけていたり、言なら人をきずつけないような言葉づかいをします。知行合一なら、誰かに言われる前に、時間を守つて行動したいです。

そして多くの患者さんの命をす
くたいです。自分を信じてまっ
すぐに前に進みます。
夢をかなえるために。

角
悠梨

私は、将来ネイリストになって、みんなの爪をキレイにして世界中の人の心をキレイにしたいです。

みんなが爪を見るたびに、「キレイだなあ」と思って、私もこんど行ってみようかなあという気もただけでももってほしいと思っています。

私は、さいきんことばづかいがあらいで、人にせつする時に思いやりのあることばをつかい、なかずにいつも人前でにやかなかおつきで、人がいやな気もちにならないようにしたいです。

そのゆめをかなえるために、思いやりのあることばを使えるようになって、大学にいったいっぱいネイリストの勉強をがんばりたいと思っています。

これで、私の志のはっぴょうをおわります。ありがとうございました。



鳥居 柇

ぼくは、しょうらい楽器屋になつて物をいっぱい売りたいです。なぜなら、お父さんたちが楽器を売っているのがおもしろそうだからです。そのためには楽器をひけたり、楽器のしゅるいを全部おぼえたりすることだと思ひます。他にはとうじゅ先生の「五事を正す」の「貌」と「視」をがんばろうと思ひます。「貌」の意味はやさしい顔つきです。「視」はやさしい目です。ぼくはそれがあんまりできていないと思うので、それをいしきしていきたいと思います。

他には、いろいろくふうをして
いきたいです。楽器を買ってくれ
たら、くじ一まいプレゼントをし
たりしたいです。会ぎの時は、考
えたり、思ったりしているだけ
は何もかわらないというのがとう
じゆ先生の教えます。よいと思っ
たことをはずかしがらずに行動で
きるようにしていきたいです。

中村
瑞

私はしょうらい保育士さんになって、子どもたちとふれ合いたいと思います。そう思ったきっか

けは、お母さんが保育士さんだったからです。それに私には、兄弟が四人いるのでめんどろの見方など色々学べるかなと思ったからです。

その夢をかなえるために、言葉づかいや思いやりを、いっしょうけんめいがんばろうと思っていました。

それに、子どもがどんな遊びがすきなのか、どんなことならしゅうちゅうするのかかんがえたり、見たりしながら、夢をかなえようと思っています。

「私の志」

比嘉 茜梨

私はしょう来、明るい美容師になって、お客さんを笑顔にしてあげようと思っています。

そう思ったきっかけは、髪の毛を切りにいった時、店員さんがとてもやさしく明るい店員さんだったからです。かっこいいなと思いました。「私も美容師になって家族や友だちにたよられたい」と思ったからです。そのために妹、母の毛をくくってみたり髪をいんだりしました。私は美容師になるためにうまく髪が切れるよう勉強します。

「私の志」

藤野 陽友

将来私は、ペットショップの店員さんになってお金をかせいでハムスターをいっぱい飼いたいです。

なぜかと言うと、ハムスターをいっぱい飼っていい思い出作りをしたからです。動物が好きでハムスターを二匹飼ってとってても可愛いです。ペットショップの店員さんだとほかの動物にいっぱい会えるからです。

そのために、こうすればよかったとかいいしないように知行合一をしてお客さんに気をつかわせないように五事の聴をおこないたいです。毛の落ちない犬がいいとか、大丈夫っていう人もいるからお客さんの話をよくきけるようにして、知行合一をがんばってペットショップの店員さんになりたいです。

「私の志」

堀内 悠慎

ぼくは将来、お笑い芸人になって、Mワン一位になる芸人をすると思います。

そう思ったきっかけは、友だちにお笑い芸人になるとMワン一位

になれるって言うてくれたのと有吉の壁に出たいからです。

その夢をかなえるために、漫才を考える事をするのと人の前で喋る練習とお笑い芸人になる練習をがんばろうと思います。

「私の志」

松岡 幸太

ぼくはしょうらいいけいさつかんになって、人助けをしたいです。なぜかと言うと、喜んでもらいたいからです。そのために、剣道や勉強をがんばります。しょうらい、やさしくて強い人になって人を助けたいです。

理由はこまっっている人がかわいそうだからです。そのためにがんばることは、つねに人の気持ちを考えることです。

「私の志」

横井 優樹

わたしの将来のゆめは、保育士になって子どもといっしょにピアノがしたいです。

なぜかと言うと、前行っていたなないる保育園の先生を見てこんなやさしい先生になりたいなあと思ったからです。そのゆめをかなえるために、ピアノと勉強をがんばろうと思っています。

なぜかと言うと、勉強やピアノをがんばらないとほんとうに保育士になったとき、ピアノがひけなかったらみんなで歌を歌えないからです。

わたしは保育士になったら、えがおでやさしい先生になりたいです。

なぜかと言うと、やさしいおつきでいいと、おこっているかおに見えたら、ないちやうかもしれないからやさしいかおつきでいいです。

大人になってほんとうに保育士になれたら、きゅうしよくのじゅんびやとうばんなどみんな得意りたいなあと思います。

「早く大人になりたいなあ。」と思っています。これからがんばっていきます。

【高島小学校】

「立志祭を終えて」

山本 りおな

とうじゅ先生は小さいころから、人を助けたり、学習したり、どりよくをして先生になってすごいなと思いました。とうじゅ先生は先生になろうとしてがんばっていたのではなく、人が幸せになるためにがんばっていたのかなと感じ

じました。

さいしよはとうじゅ先生が考えた致良知や五事を正すはいみがわからなかったけど、学習してからいみをして、とうじゅ先生は人はだれでも美しい心をもっていることをしり、すてきな言葉を作ってきたとわかりました。とうじゅ先生は、みんなにあいされるほど人助けをし、おはなしになるほど助けをしたとわかりました。

とうじゅ先生のことをふりかえって、先生はしらない人にも教え、とうじゅ先生のおかげで学校があるのかなと思いました。とうじゅ先生は人々が幸せになるようにがんばって自分よりも人をかしくしたりしていたから、とうじゅ先生がしていたことがいつまでもたいせつにうけつがれているのだと思います。

「立志祭を終えて」

竹田 ゆきの

とうじゅ先生のことを勉強した時に、とうじゅ先生は、いろいろなことをけいけんしてやさしい人になり、先生にまでなるえらい人になったのがすごいと思いました。

立志祭では、自分のゆめを発表して、うまくいかなと心配しま

した。ですが、うまく発表できてうれしかったです。田中さんの話ではいろいろなことがわかり、五事を正すという言葉を教えてもらった時に、自分にはできていないことがわかって、これからできていないことをがんばってしようと思いました。

あと、とうじゅ先生は、五事を正すの全てをできていてすごい人だと思いました。

「立志祭を終えて」

上野 げんしん

立志祭に向けてぼくは、とうじゅ先生について、まなんだり調べたりしました。たとえばとうじゅ先生の年表を見たり、とうじゅ先生のいろんな教えをまなんだり、とうじゅ先生の紙しばいなどいろいろしました。ぼくの気に入った教えが何かありました。とくに気に入ったのは「致良知」

です。「致良知」の意味は、生まれた時はきれいな心を持っているけど、どんどんよごれていくから正しい行いをして心をきれいにしましょうという意味です。ぼくはこれを聞いて、けんかしている時に思い出したらちゃんとあやまろうと思いました。

立志祭のれんしゆうをしてい

て、うまくできなくてこまっていたけど、家族がアドバイスをしてくれたから本番でちゃんとできました。

「立志祭を終えて」

桂田 あいと

立志祭の前にかみしばいをよんで全てわかっていたと思っていましたが、カルタをしたり、田中さんの話を聞いてほかにもうとうじゅ先生についてもっといろいろなことがあつてびっくりしました。

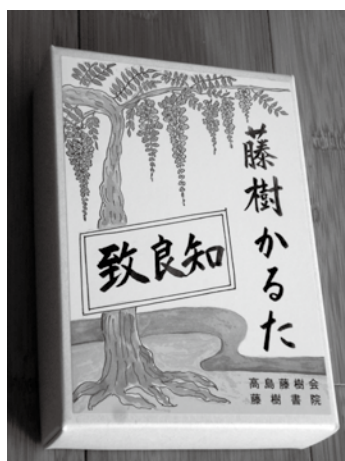
自分のしょう来について考えるのはむずかしいとさいしよは思っていたけど、よく考えてみると、なろうと思っていたものがバレーボールのせん手だったので、自分にもしょう来のゆめがあつたんだと思いました。

とうじゅ先生のことを勉強してから、もっとゆめがかなうようにがんばろうと思いました。



「藤樹かるた」の紹介③

(企画広報委員会)



(かるたと解説)

お

大洲では 学ぶ与右衛門 仲間でき

与右衛門(藤樹先生)は、大洲にいた頃、最初は学問の仲間がいなかった。しかし、真面目に一生懸命、学問をされる先生の姿に影響されて、次第に仲間が増えていった。



曇りなき 心に残る 王陽明

朱子の学問を勉強されていた藤樹先生は、実行するには無理があり、かた苦しく思われた。次第に疑問を持たれていた頃に「陽明全集」に出会い、自分が考えていた通りのことが書かれているのに驚き、深い感銘を受けて、陽明学へと進まれた。



山を越え 工夫を重ねて 良知に致る

朱子学から始めて、陽明学へと長い間の苦学、独学を続けられた藤樹先生は、人間として大事なことは、人間本来の姿にかえり着くこと、すなわち誰でも良知という美しいを持つているので、この良知を磨き、良知の教え通りにする生き方、それが良知に致ることだと見つけれられた。

や 致良知



ま 毎朝に 門人たちと 読む「孝経」

門人たちと勉強を始める前に、毎朝、必ず「孝経」（中国の本、五経の中の一つ）を読み上げ、勉強の心構えとされた。「孝経」のはじめに「孝とは徳の本なり」と書いてあり、孝行が道徳の根本であると教えているので、この大きな孝行を藤樹先生は身をもって実行された。



け 今朝もまた 熊沢蕃山 門の前

熊沢蕃山が、心から尊敬できる本当の先生について勉強したいと探していた矢先に、京都で正直馬方又左衛門の話を聞いた。これに深く感動した蕃山は、藤樹先生を小川村に訪ね、弟子にしてほしいと二日間も門前に座り込み、ついに許された。



ふ 故郷へ 帰る心に 曇りなし

生まれ故郷の小川村に、年老いた母が一人で暮らしていることを、藤樹先生は日夜心配されていた。そこで、母のもとへ帰って孝養を尽くしたいからと、早くから大洲藩に辞職の願いを出されていたが、聞き入れられなかったたので、しかたなく先生は大洲から逃げて帰られた。全てを捨てて命がけで故郷の母のもとへ帰る先生の心には、一片の曇りもなかった。

ふ



こ 根気よく 教えた了佐は 医者になる

大洲にいる頃、物覚えが決して良いとは言えない大野了佐の熱心な願いに心を打たれ、藤樹先生は、了佐のために自ら医学の本の説明書を書き、大変な苦勞を続けて了佐に医学を教えられた。そして、ついに了佐は一人前の医者になった。



藤樹かるた制作委員会委員

足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・
北川暢子・清川貞治・高谷美智子・
山本義雄 (五十音順)

藤樹書院・良知館通信⑬

『己れに克ち、礼に復えるを仁と為す（克己復礼為仁）』

藤樹書院 志村 洋

藤樹先生の「論語解」から。

「顔淵、仁を問う。子曰く、己れに克（か）ち、礼に復（か）えるを仁と為す。一日己れに克ち、礼に復えれば天下仁に帰す。仁を為すは己れに因る。而して人に因らんや。」（顔淵篇）

顔淵が仁のことをお尋ねした。先生は言われた。「（内に）わが身をつつしんで（外は）礼（の規範）にたちもどるのが仁ということだ。一日でも身をつつしんで礼にたちもどれば、世界じゅうが仁になつくようになる。仁をおこなうのは自分次第だ。どうして人だのみできょうか。」（金谷治さんの「論語」訳注から）

この章は垂聖といわれた顔淵（名は回）が初学のときに仁を知らなければ徳に入ることができないので師に尋ねたものです。

藤樹先生は最初に「徳愛（明徳の慈愛）を仁と名づく。万物一体の本心なり」として、礼は明徳の条理であり、名義は異なっても実体は同じものだといわれます。そして己れとは意必固我の私欲であるとされるのです。

私欲は五事の良知を欺き聖学の道を離れる原因になるものです。克つとは私欲を除くことですが、それを

敵だとして先生は勝つのだとされるのです。そこに私欲から脱することへの先生の強い決意を感じるのです。

「礼に復えるを仁と為す」というのは礼と仁は同じなので当然であるとしても「仁を為すは己れに因る」とあるように私欲を克去して万物一体の本心に復えるためには自分が為すよりないのだという先生の切実な思いが、この章を最後に選ばれた理由であると思えてならないのです。

「顔淵曰く、請う、其の目（もく）を問うと。子曰く、礼に非ざれば視ること勿（なか）れ。礼に非ずんば聴くこと勿れ。礼に非ずんば言うこと勿れ。礼に非ずんば動くこと勿れと。顔淵曰く、回、不敏と雖（いえ）ども請う、斯の語を事とせんと。」（上文のつづき）

顔淵が「どうかその要点をお聞かせください」といったので、先生はいわれた。「礼にはずれたことは見ず、礼にはずれたことは聞かず、礼にはずれたことは言わず、礼に外れたことはしないことだ。」顔淵は聞いた、「回はおろかではございますが、そのお言葉を実行させていただきます。」（前同）

顔淵が師に請うたのは「克己復礼」の細目です。一概に私欲といっても多くの様態があるので、どこから手をつけてよいのか分からなかったのです。

先生は孔子が非礼であれば視・聴・言・動すること勿れといわれた最後の「動」を思と貌を含（か）ねたも

のであるとして、次のようにいわれます。

「聖学の道五事の上に在りて放心（本心を放れた心・私欲）を収むるほか他事なきこと、是において観るべし。視聴言動皆思を主とする。故に四勿の功、心上において思の邪の克去を本とする。」

私欲に勝つことがすべての根本であるといわれるのです。自分のもとで学ぶ若い同志諸生に私意私欲を克服して万物一体の本心を明らかにすることが聖学への唯一道であることを伝えようとなさったのが、この「論語解」です。

賛助会員一覧

★新規賛助会員のご紹介

令和四年四月十五日までに、本会にご加入いただきました賛助会員をご紹介します。ご加入ありがとうございます。

○清水安三記念館

（高島市新旭町北畑）

★既加入の賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- ウエストレイクホテル可以登楼
- 税理士法人 淡海総合会計
- 大津公証人会 白髭博文
- 大溝工業 株式会社
- 株式会社 大山建設
- 岡本アルミ建材 株式会社
- 株式会社 オミジ
- 川島酒造 株式会社
- 川島織布 株式会社
- 株式会社 Grow-S

- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 佐治タイル 株式会社
- 株式会社 澤村
- 株式会社 シグマックス
- 有限会社 白浜荘
- 新旭電子工業 株式会社
- 杉橋建設 株式会社
- ソエダ 株式会社
- 高島鋳建 株式会社
- 田中マネジメント事務所
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- 寺子屋まなびし童心塾
- 有限会社 天平フーズ
- 株式会社 戸井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 株式会社 ナカサク
- ナカシヨウ 株式会社
- 株式会社 中田運送
- 中村印刷 株式会社
- 株式会社 中村測量設計
- ニッケイ工業 株式会社
- 八田建設 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 富士包装紙器 株式会社
- 戸次会計事務所
- 株式会社 ホリゾン
- 株式会社 ヨシダヤ
- 株式会社 リンクス
- 有限会社 綿庄食品店

（五十音順）

お詫びと訂正

★前号（第28号）1頁の写真「神龕欄間」と「笹竹と算木カード」を反対に載せていました。お詫びして訂正いたします。